

事故から丸8年。東京電力は福島原発事故の責任をとれ！

柏崎刈羽原発再稼働するな！汚染水止めろ！

東京電力は日本原電（東海第二原発）の債務保証をするな！

第66回 東電本店合同抗議（追悼と抗議：特別版）

日時：2019年3月10日（日）13:00~14:30

場所：東京電力本店前（東京都千代田区内幸町）

呼びかけ：経産省前テントひろば(070-6473-1947)、たんぼぼ舎(03-3238-9035)

賛同：東電株主代表訴訟、ピースポートなど134団体（4頁に団体名称一覧）

2019.3.10 東電本店合同抗議への連帯メッセージ

(1) 『原発ゼロ、やればできる』（小泉純一郎）

経産省前テントひろば 淵上太郎

原発推進は、いくらかでも合理的なのか？ 人間の社会に大きな可能性をもたらすものなのか？ それ以外の道がないのか？ 一市民・一国民たるものはシッカリ考えなければならない。他人事ではない。今や原発推進はいかなる合理性もなく、大いなる未来に向けたいかなる可能性ももたない幻想である。私たちは原発に反対だ。2019年3月10日、東電本店前に改めて集まろう！ 私たちの力を集めよう！

確かに私たち一人一人の力は小さいが、大勢が合わされば大きな力となる。この力を政治的に露骨に示すことが肝要だ。再稼働反対、脱原発、原発ゼロの一点でよい。決して諦めることはない。今や『原発ゼロ、やればできる』（小泉純一郎）である。共に元気を出して闘おう！

(2) あれから9年目に入ります

黒田節子@原発いらぬ福島の人たち

溶け落ちたままの核燃料、垂れ流しのトリチウム汚染水、不足する原発作業員と「被ばく労働」、増える健康被害（子どもたちの甲状腺ガンとその強い疑いがついに272人を超えたにもかかわらず、いまだに原発から出た放射能のせいだとはいわない国と県、専門家たち）、住宅補償の打ち切り（山形では避難者追い出し裁判）、焼却炉問題、汚染土壌の再利用、モニタリングポスト撤去問題…。

これらの深刻な問題を隠蔽し、安全・安心キャンペーンの中で本当のフクシマがどんどん消されようとしています。責任者が罰せられず、のうのうと罪を犯し続けています。（山下俊一も法廷へ！）

「再稼働反対」と「脱被ばく」。私たちはこれ以上被ばくしたくないのです。子どもたちのために「チェルノブイリ法日本版」を全国各地で作りましょう！皆様、ご協力ください！

(3) 「告発その後」

新潟から 蓮池 透

新潟県民の約65%が再稼働反対であるにもかかわらず、「奥ゆかしさ」で知られる越後人の気質からなのか。それとも、地元の雇用を支える「必要悪」と考えられているのか。それに呼応するかのように、東京電力の広報誌「atom」には、毎月柏崎刈羽原発で働く人は約6,400人と掲載されている。だが、全基停止している同原発でその人たちが何をしているのかは触れていない。

何よりも、県内で頻りに流れるテレビ・ラジオ CM は一体何だ。「福島第一の事故の反省を踏まえて」と盛んに伝えるが、それなら再稼働は止めるべきではないのか。「たゆまぬ努力」「プロ意識」と繰り返されるが空疎だ。県内約 2,500 人にいる福島からの避難者の方々を愚弄するものだ。被害者に寄り添うのではなかったのか。広告代理店にいくら払っているのか。また、日本原子力発電への約 1,900 億円の支援。金銭感覚のマヒか？ 8 兆円に比べて、はした金と考えているのか。開いた口が塞がらない、とはこのことだ。

何度でも言う。感情論でもイデオロギーでもなく、理性的に考えて原発の再稼働など論外。

もし、事故が起きたら怖い、危ない…という次元の問題ではない。それ以前の問題。経済性や電力需給面など様々な観点から、再稼働する環境にはない。技術的にも拙著の通り、少なくとも三つの理由がある。これは普遍的なこと。(注：長文のため、抜粋いたしました)

(4) 東電本社前行動・原電本社前行動を続ける皆さまへ

福島県民 武藤類子

原発事故から丸 8 年を間近に迎える今日も、東電電力本社前そして日本原電本社前で抗議を続ける皆さまに、心から敬意と感謝の気持ちを表します。

また 3.11 が近づいてきました。いまだに当時のことを思い出すと、胸がざわつき、事故によって起きた理不尽と苦しみが続いていることを再認識します。

2012 年に告訴し強制起訴となった東京電力元幹部の、原発事故の責任を問う刑事裁判は 36 回を経て、昨年は傍聴に明け暮れました。その公判の中では、今まで闇に眠っていた多くの真実が明らかにされています。

政府機関である地震調査研究推進本部が公表した長期評価では、福島県沖で巨大な地震津波が起きることは十分注意すべき確率だったこと。それを受けて東電社員たちは計算を行い 15.7m という津波評価を得て、具体的な対策も考えていたこと。3 人の被告人はその情報を受ける様々な機会を持ちながら、対策を何もせずに原発を運転し続けたこと。それらが多くの証言、メール、議事録などの証拠から浮かび上がっています。それに対し、被告人らは「見ていない、聞いていない、記憶にない、自分には権限がない」などと無責任な主張を繰り返すばかりでした。

昨年末、検察官役の指定弁護士は、論告で「被告人らは自らの事故の責任を否定し、他者に責任を転嫁しようとする供述ばかり」「原子力事業者の最高経営層に属するものの態度としては、到底考えられない」と指摘し、「被告人らに有利に斟酌する事情は何一つない」として、3 人に業務上過失致死傷罪の上限となる禁錮 5 年を求刑しました。

3 月 13 日の東電側の最終弁論で結審し、判決は夏ごろになるでしょうか。事故を起こした企業の責任がきちんと問われ、悲惨な原発事故がもう二度と起きないように、裁判所が厳正な判決を下すことを心から願っています。

未だに原子力緊急事態宣言が解除されていない福島の実況ですが、次々と新たな問題が起きています。東電敷地内のタンクにたまり続けるトリチウム汚染水の処分方法が検討され、海洋放出をすべきだと原子力を規制する立場の更田規制委員長が述べました。それに対し、経産省が開催した説明・公聴会では多くの市民が意見を表明し、汚染水は海洋放出をせずに陸上保管をするべきだと訴えました。私も女性たちと勉強をしながら、公聴会に申し込み意見を公述しました。もちろん漁業者も徹底抗戦の構えです。しかし、それらの声は昨年 12 月 28 日の汚染水に関する経産省の小委員会の議論では全く反映されませんでした。

また、事故後福島県内に設置されたモニタリングポスト 2400 台の撤去の方針がやはり原子力規制委員会から出されました。モニタリングポストの継続配置を求める市民の会が設立され、子育て世代の母親たちも含め多くの住民たちが各地での説明会で撤去に反対する声をあげています。県内の約 1/3 の自治体も撤去をしないでほしいという意見書を国に出しています。

除染土を市道に埋めて再利用しようとする二本松市の実証事業は、住民の反対で中止になりましたが、今度

は高速道路の路床として埋める計画が南相馬市で進められています。飯館村の帰還困難区域では農地のかさ上げ材としての再利用計画が進められています。それは、日本全国にばらまかれる恐れがあります。

昨年、国連人権理事会の特別報告者が、子どもや出産年齢の女性に対しての避難解除の基準をこれまでの20mSv以下から年間1mSv以下まで下げることや、無償住宅供与などの公的支援の打ち切りが、区域外避難者らにとって帰還を強いる圧力になっていることなどを指摘しましたが、福島県は区域外避難者に対し打ち切り後に提供していた県の支援策も今年3月で終了し、今後公的な支援は行わないとしています。また、未だ帰還困難区域を含む浪江、富岡、葛尾、飯館の4町村に対しても2019年度末までに仮設住宅の提供を全て終了すると福島県知事が発表しました。今年になって、やはり国連の子どもの権利委員会からも、新たな勧告がでています。

事故当時18歳以下の甲状腺検査では、現在、甲状腺がんと診断された人が166人、がんの疑いが40人、合わせて206人と発表されています。

しかし、昨年の甲状腺評価部会において、その中には含まれていないがん患者が11人いることが公表されました。

また、県民健康調査を通さずに甲状腺がんを福島県立医大以外で手術している人が、民間の支援団体によって把握されていますが、県は県民健康調査以外の事例の調査はしないとしています。

評価部会は今後原発事故との関連の検討に入っていますが、これでは、原発事故後の福島県内の小児甲状腺がんの正確な罹患数はわからず、正確な評価はできないと思います。

検討委員会では、過剰診断による見つけなくてもよいがんを見つけてしまうとか、学校での一斉診断が人権侵害にあたりと主張して、検査の縮小を提案する委員もいますが、継続の重要性や早期発見と早期治療を主張する委員との間で激しい議論となっています。

今年になり、事故当時双葉町に在住していた11歳の少女の甲状腺等価線量が100mSv程度になると国の研究機関・放射線医学総合研究所の2011年5月の会議で報告されていたことが、新聞で報道されました。国は今まで「100mSvを被曝した子どもはいない」と発表していました。当時避難区域からの避難者が内部被ばく量の検査が十分にされずに「問題がない」とする文書が作られていたことも明らかになりました。福島県伊達市の被曝線量を1/3に見積もった論文がその間違いを指摘されているなど、被曝と健康被害の関連はますます隠蔽が疑われる状況になっています。

ひとたび原発事故が起きれば、このように思いもしなかった出来事が続いていきます。東電はその現実を見つめ、真摯に反省をし原発からの完全撤退を決断して欲しいです。日本原電は、安全な原発などないことを認識し、東海第二原発の廃炉を一刻も早く決断して欲しいです。

福島を想い、東電や原電前で闘い続けて下さる仲間がいることが、私たちにとって力強い励みとなっています。本当にありがとうございます。この行き詰った日本を、核と原発、そして戦争も差別もない平和で、気持ち良く、一人一人が大切にされる国にするために力を合わせていきましょう。

(5) 福井・若狭からの連帯のメッセージ

サヨナラ原発福井ネットワーク 若泉政人

全国の原発に反対する活動をされている皆さんへ福井・若狭から連帯のメッセージを送ります。

あの東日本大震災、そして、その後の東電福島第一原発事故から8年になります。あの原発が爆発した時から私の原発、そして社会、日本に対する意識は大きく変わりました。今までただ見ているだけだった生活から、自分で原発反対のアクションを起こすようになりました。

福井では関西電力の大飯原発、高浜原発が稼働しています。昨年末に関西電力の岩根社長は西川福井県知事を訪ね、年内公表を約束していた中間貯蔵施設の建設候補地の公表が困難であることを報告しました。

大飯原発の再稼働の交換条件としての約束が守れなかった以上、社会的責任上、関西電力は大飯原発を直ち

に停止すべきでした。

しかし、そんなそぶりも見せません。福井県も何も言いません。約束は信用です。信用がない社会が成り立つはずがありません！原発は社会をゆがめます。原発の無い社会、日本、世界のために微力ながら私も闘います！ともに頑張りましょう！

◎賛同団体（順不同：134 団体）・・・賛同団体を募集中！

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 001: 東電株主代表訴訟 | 046: 脱原発をめざす交流会 | 089: 千葉学校労働者合同組合 |
| 002: 脱原発・東電株主運動 | 047: 原発のない未来を！なかのアクション！ | 090: あさか・九条の会 |
| 003: 東電と共に脱原発をめざす会 | 048: 福島原発事故緊急会議 | 091: 怒っているぞ！障害者きりすて！
全国ネットワーク |
| 004: 反原発自治体議員・市民連盟 | 049: 脱原発弁護団全国連絡会 | 092: 汚染水問題を憂う京都府民の会 |
| 005: 脱原発かわさき市民 | 050: かつりっく東京教区 正義と平和委員会 | 093: 反戦老人クラブ滋賀 |
| 006: 原発止めよう！東葛の会 | 051: 埼玉県平和資料館を考える会 | 094: 脱原発中野も |
| 007: 原発さよなら千葉 | 052: グリーنز千葉 | 095: 我ら ずーっと日大全共闘 |
| 008: ピースサイクル全国ネットワーク | 053: 九条の会・さいたま | 096: 明大土曜会 |
| 009: ストップ原発&再処理・意見広告の会 | 054: 市民自治をめざす 1000 人の会 | 097: 一般社団法人 共同センター・東京 |
| 010: 原発を考える品川の女たち | 055: 原発即時ゼロの会 | 098: 習志野市民フォーラム |
| 011: 憲法を生かす千代田の会 | 056: 東京平和映画祭 | 099: アンポをつぶせ！ちょうちんデモの会 |
| 012: アソシエーションズ JP | 057: 脱原発！フェミニスト集合 | 100: 日本山妙法寺 別府道場 |
| 013: 電気代一時不払いプロジェクト | 058: 原発いらん！トッケビアン | 101: ロラネット・三多摩 |
| 014: 原発・核燃とめようかい | 059: 芝工大全学闘 | 102: 全労協全国一般東京労働組合 |
| 015: 平和と民主主義をめざす全国交歓会 | 060: さよなら原発 市民の会 | 103: 福島バッジプロジェクト |
| 016: アジア共同行動日本連絡会 | 061: 清瀬・憲法九条を守る会 | 104: ふくしま支援・人と文化ネットワーク |
| 017: もんじゅ・西村裁判を応援する会 | 062: 自治市民の会 | 105: 東電の刑事責任を追及する会 |
| 018: 早稲田の杜の会 | 063: さよなら原発@めぐろ | 106: 震災復興プロジェクト・神奈川 |
| 019: テントひろば応援団 | 064: 使い捨て時代を考える会 | 107: 伊方原発 50km 圏内住民有志の会 |
| 020: プルトニウムコミュニケーション神奈川 | 065: 安全農業供給センター | 108: 志賀原発・命のネットワーク |
| 021: レイパーネット・川柳班 | 066: 第五期沖縄意見広告運動 | 109: スリー・ノンの女たち |
| 022: 平和・環境・人権委員会 | 067: 原発から住民の命と安全を守る連絡会 | 110: 全国一般ふくしま連帯ユニオン |
| 023: 農民連合東京 | 068: 市民が求め創るマニフェストの会 | 111: 大熊町の明日を考える女性の会 |
| 024: 三里塚に緑の大地を・労働者市民の会 | 069: 東京中部地域労働者組合 | 112: ふくしま WAWAWA 一環・話・和一の会 |
| 025: バスストップから基地ストップの会 | 070: 地球倫理協会 | 113: 「沈黙のアピール」 |
| 026: 再稼働阻止全国ネットワーク | 071: 仏法山禅源寺 | 114: フクシマ・アクション・プロジェクト |
| 027: 原発いらぬ福島の人たち | 072: 歴史をたずねる会@杉並 | 115: 原発いらぬ！金曜行動・郡山 |
| 028: 劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク | 073: 東日本大震災被災者支援千葉西部ネット | 116: 鹿砦社 |
| 029: 日露歴史研究センター | 074: 市原憲法を活かす会 | 117: 月刊「紙の爆弾」編集部 |
| 030: 日本音楽協議会（日音協） | 075: サスティナブルテクノロジー・メント研究所 | 118: 「NO NUKES voice」編集委員会 |
| 031: 劣化ウラン研究会 | 076: 「平和への結集」をめざす市民の風 | 119: かがしま反原発連合 |
| 032: 全国日雇労働組合協議会（日雇全協） | 077: パトリオットミサイルはいらない！
習志野基地行動実行委員会 | 120: スペース 2 1 |
| 033: 日雇全協・山谷争議団 | 078: 連帯墨田（墨田区職員労働組合） | 121: 止めよう戦争への道！百万人署名運
動・千葉県連絡会 |
| 034: 山谷労働者福祉会館活動委員会 | 079: 公益財団法人 東京 YWCA | 122: 脱原発扇子の会 |
| 035: ピースポート | 080: 子どもと人権・ところざわ | 123: 月曜定例会 |
| 036: 本郷文化フォーラムワークス スクール (HOWS) | 081: ドイツ公益社団 さよなら原発
デュッセルドルフ | 124: 岩内原発問題研究会 |
| 037: 被ばく労働を考えるネットワーク | 082: フードバンク | 125: 反原発市民の会・富山 |
| 038: 原発いらぬ！ちば | 083: 全ての原発即刻停止・廃炉、東久留米 | 126: STOP 原子力★関電包囲行動 |
| 039: 脱被ばく実現ネット | 084: 郷土教育全国協議会 | 127: 若狭の原発を考える会 |
| 040: 市民エネルギー研究所 | 085: アクション よそののネット(フランス) | 128: ひなん生活をまもる会 |
| 041: 立川自衛隊監視テント村 | 086: 原発知っちゃる会 | 129: 浜岡原発を考える静岡ネットワーク |
| 042: 市民の意見 30 の会・東京 | 087: 今、憲法を考える会 | 130: 原発震災を防ぐ風下の会 |
| 043: ノーモア南京の会・東京 | 088: あるこう会 | 131: さよなら原発越谷連絡会 |
| 044: 原発いらぬ牛久の会 | | 132: 環境汚染を考える三島市民の会 |
| 045: 食政策センター・ビジョン 2 1 | | 133: 原子力民間規制委員会・東京 |
| | | 134: いのちをつなぐ会 |